

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民が市政についてどのように考え、また何を望んでいるのかを統計的に把握し、市政運営にあたっての基礎資料とすることを目的に、昭和 43 年以降毎年実施している。今回は、宇都宮市に対する感じ方、広報媒体の活用状況、発達障がい、中心市街地活性化、救急医療、障がい者施策、「小中一貫教育と地域学校園」、市議会広報、市拠点のプロスポーツチーム、青少年の薬物乱用問題について調査した。あわせて、宇都宮市の取組についての意識を把握するため、基本施策に対する満足度、認知度及び重要度、市政 91 の取組に対する重要度及び満足度について調査した。

2. 調査の項目

調査項目は以下のとおりである。

調査事項	調査項目
回答者属性	性、年齢、職業、家族構成、居住年数、居住地域、居住地区
宇都宮市に対する感じ方	宇都宮市の好き・嫌い、好きな理由、嫌いな理由
広報媒体の活用状況	「広報うつのみや」の入手方法、「広報うつのみや」の閲読状況、「広報うつのみや」で読んでいる記事、「広報うつのみや」を入手していない理由、「広報うつのみや」で充実してほしい情報、市政情報の各広報媒体の視聴状況、市政情報を得るために利用したい手段
発達障がい	「発達障がい」についての認識、発達障がい名の認知、「発達障がい」の情報入手手段
中心市街地活性化	中心市街地活性化に有効・必要な取組、中心市街地開催イベントへの興味、中心市街地を魅力ある場所にするために有効・必要な取組
救急医療	「救急受診の手引き」の認知・保管状況・閲覧状況、市主催の救急医療イベントの認知・参加意欲、市主催の救急医療イベントに参加したくない理由
障がい者施策	障がい者の福祉施策として力を入れるべきこと
「小中一貫教育と地域学校園」	「小中一貫教育と地域学校園」の認識、「小中一貫教育」へ期待すること、「地域学校園」へ期待すること
市議会広報	議会広報紙や議会ホームページの閲覧状況、議会広報紙で読んでいる記事・読んでみたい記事・必要だと思う記事、議会ホームページで読んでいる記事・読んでみたい記事・必要だと思う記事
市拠点のプロスポーツチーム	プロスポーツチームの認識、プロスポーツチームの観戦状況、プロスポーツに期待すること
青少年の薬物乱用問題	青少年の薬物乱用防止意識啓発に重要なこと、啓発活動に適切な会場

3. 調査の設計

調査地域 宇都宮市全域

調査対象者 満20歳以上80歳未満の市民4,000人

抽出方法 住民基本台帳から単純無作為抽出

調査方法 郵送法

調査期間 平成23年7月4日～7月26日

4. 回収結果

標本数	有効回答数	有効回答率
4,000	2,215	55.4%

<性別・年代別の回収状況>

性別 年代	男 性			女 性			合 計		
	標本数	回収数	回収率	標本数	回収数	回収率	標本数	回収数	回収率
20歳代	305	91	29.8%	281	107	38.1%	586	198	33.8%
30歳代	474	182	38.4%	384	221	57.6%	858	404	47.1%
40歳代	398	160	40.2%	331	221	66.8%	729	381	52.3%
50歳代	358	180	50.3%	336	235	69.9%	694	415	59.8%
60歳代	335	200	59.7%	343	260	75.8%	678	460	67.8%
70歳以上	203	159	78.3%	252	190	75.4%	455	349	76.7%
合計	2,073	972	46.9%	1,927	1,235	64.1%	4,000	2,215	55.4%

(注) 性別・年代別ともに「無回答」があるため、合計数値と一致しない。

5. 標本誤差

標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数(n)、②回答の比率(P)によって誤差幅が異なる。

回答の比率 (P) 回答数(n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
2,215	±1.25%	±1.66%	±1.90%	±2.03%	±2.08%
2,200	±1.25%	±1.67%	±1.91%	±2.04%	±2.08%
2,000	±1.31%	±1.75%	±2.00%	±2.14%	±2.19%
1,800	±1.38%	±1.84%	±2.11%	±2.26%	±2.30%
1,500	±1.52%	±2.02%	±2.31%	±2.47%	±2.53%
1,000	±1.86%	±2.48%	±2.84%	±3.03%	±3.10%

<標準誤差の算出方法>

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

※b：標本誤差

N：母集団数（宇都宮市の20歳以上80歳未満人口）

n：比率算出の基礎（回答者数）

P：回答の比率（%）

<表の見方>

ある設問の回答数が2,215人であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%である場合、母集団全体に対する調査を行った場合の回答比率が、60%を中心として±2.03%以内に含まれる可能性が95%であると考えられる。

6. 調査報告書の見方

- 1 集計値は、小数点第2位を四捨五入とする。したがって、数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合がある。
- 2 回答比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- 3 基数となるべき実数はnとして表示した。その比率は、件数を100.0%として算出した。
 - 4 nが小さくなるほどデータの精度が保証しがたくなるので、50未満の場合は注意を要する。したがって、nが50を下回る場合、原則として数値による具体的なコメントは行わない。

